

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

その後、トランプ大統領のロシアゲート疑惑や、予想を下振れする米経済指標が続いたことでド

ドル/円相場のトレード戦略

ルの上値が重い状況となるものの下値も限定的で、6月に米国が利上げをするとともにバランスシート縮小に言及したこともあり、徐々にドル上昇へ煮期待感が高まっています。

ただし、米景気減速懸念とトランプ政権の経済政策実行遅延の可能性がドルの上値を抑える状況に変化はなく、もう一段の上昇には米国の景気拡大を確認できる材料が必要といえます。

■ 短期展望

先週は、週初からドルが底堅い推移となりました。ECB ドラギ総裁がインフレ見通しの変更と言及したこともあり、ユーロ円が急騰し、それにつられてドル/円も上昇、さらに週後半では米GDP確定値の上方修正を受けドル買いが加速し、112円93銭の高値をつけました。ただし、その後のフォローがなく、113円を突破できなかったことから、112円台前半まで下押しして週越となりました。

今週は、週末の雇用統計はじめ重要な米経済指標が続きます。

現状では米経済に関して、FRBの強気と市場の弱気に見方が割れており、経済指標の結果次第では、今後の大きな流れが決定される可能性もあり、注意が必要でしょう。